

審査の結果の要旨

氏名 高野 歩

本研究は、日本における薬物乱用・依存の状況に適したウェブ版の再発予防プログラムを開発し、その効果を覚せい剤等の薬物使用障害と診断を受けた通院患者を対象に無作為比較試験において検証することを試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 日本で薬物使用障害の治療プログラムとして幅広く使用されている Serigaya Methamphetamine Relapse Prevention Program (SMARPP)をベースに薬物使用障害を有する人向けのウェブ版再発予防プログラム「e-SMARPP」が開発された。コンテンツは、1) 再発予防プログラム、2) 薬物使用状況セルフモニタリング、3) 薬物使用障害に関する治療や支援の情報提供、4) ユーザーガイド、5) 調査用アンケートであり、様々な薬物の乱用・依存に共通する課題を取り扱う内容となっていた。
2. 薬物使用障害と診断されたことのある者 10 名を対象にパイロット調査を行ったところ、ユーザビリティは概ね良好であることが示された。一方、再発予防プログラムの動画が長い、長期間断薬を継続している者においてはセルフモニタリングが有効でないといった意見があり、1セッション当たり約 60 分で完了できるようセッションの内容が修正され、セルフモニタリングにメモ機能が追加され、プログラムが改良された。
3. 薬物使用障害と診断された通院患者 48 名を対象に、無作為化比較試験において e-SMARPP とウェブ版セルフモニタリングの効果を比較したところ、介入期間中における主たる乱用薬物の最大断薬継続日数に有意差は認められなかった。また、8 か月後における再発リスク (Stimulant Relapse Risk Scale) においても有意差は認められなかった。
4. 副次的アウトカム (変化への動機づけ: Stage of Change Readiness and Treatment Eagerness Scale-8 version for Drug Use、薬物使用に対する自己効力感: 薬物使用に対する自己効力感尺度、QOL: WHOQOL26: 、首尾一貫感覚: The University of Tokyo Health Sociology version of the SOC3 scale、過去 1 か月間で薬物使用に費やした費用: 円、過去 28 日間における断薬継続日数と合計日数) においても、有意差は認められなかった。
5. サブグループ解析の結果、外来治療継続期間が 3 年未満の者では、介入群において介入期間中における主たる乱用薬物の最大断薬継続日数 ($d = 0.96$)、すべての薬物の最大断薬継続日数 ($d = 1.20$)、すべての薬物の断薬合計日数 ($d = 1.25$) が有意に長い結果となった。このことから、治療につながったばかりの患者において、より高い介入効果があるこ

とが示唆された。

6. プロセス評価の結果、プログラム完遂率は、介入群で再発予防プログラム 73.9%、セルフモニタリング 82.6%、対照群でセルフモニタリング 100%であった。e-SMARPP 介入からの脱落を防ぐ対策が必要であることが示された。
7. 介入群において、ユーザビリティを測定する Web Usability Scale の下位尺度である好感度、内容の信頼性の得点、およびサービス満足度を測定する CSQ-8 得点が有意に高く、深刻な有害事象は報告されなかったことから、e-SMARPP は安全で実施可能性が高いことが示された。
8. 調査の脱落者は、再発リスクが高く、変化への動機づけが低く、自己効力感や首尾一貫感が低い傾向があり、介入の脱落者は、10 代後半頃から薬物を使用し、依存重症度が高く、うつ・不安傾向が強く、再発リスクが高く、自己効力感や OQL が低い傾向にあった。このことから、プログラムの改善や調査実施体制の改善が必要であると考えられた。

以上、本論文は薬物使用者向けのウェブ版再発予防プログラム e-SMARPP を開発し、e-SMARPP が安全で実施可能性が高く、特に治療につながって間もない薬物使用者に有効である可能性を明らかにした。本研究は、薬物乱用・依存に対する治療・支援が乏しい我が国において、新たな治療方法の確立に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。